

# ぶっばん お仏飯

「いのち」をつなぐ

お寺やお家のお内仏では、お朝事あさじのあとに、お仏飯そなを備えます。お仏飯は「いのち」をつなぐ源ですから、まずは、み仏様にお仏飯をお備えます。ここを、はじまりにしましょう。はじまりとおわりは大切です。

食前と食後の言葉に込められた意味

## 食前の言葉

ひかり  
み光のもと われ今さいわいに

この浄きよき食しょくをうく

いただきます

## 食後の言葉

われ今 この浄きよき食をおわりて

こころ豊ゆたかかに 力ちから身にみつ

ごちそうさまでした

食前と食後の言葉の「浄きよき食しょく」は、「いのち」をいただくことで「いのち」をつなぐことの意味が込められています。また、食前には、「幸い」に食しょくをいただけるありがたさが謳うたわれています。そして、食後にも「浄きよき食しょく」をいただいて、「いのち」をつなぐことができた感謝を述べることでおわります。

出典 幡谷淳信「三月教案」供養  
(『児童と宗教』3巻3号より、一部抜粋、現代語訳)  
リライト “サガエさん” こと佐賀枝夏文